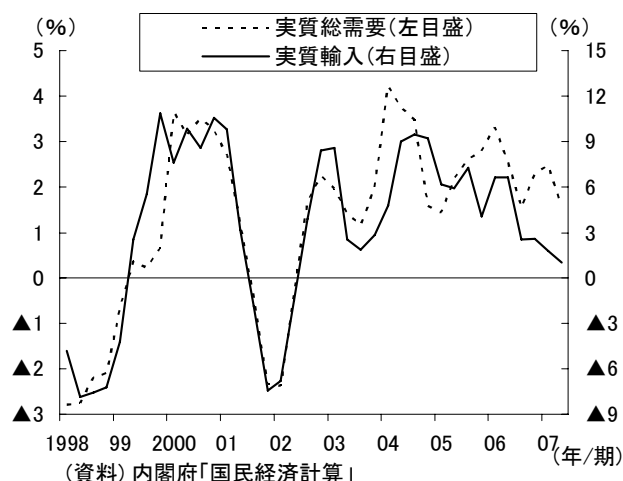


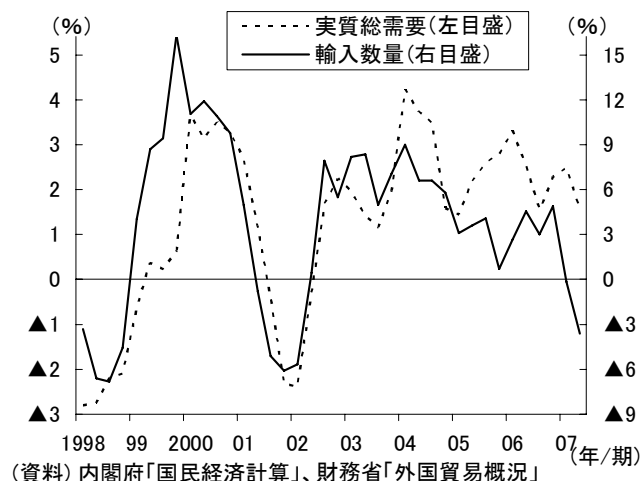
わが国輸入数量減少の要因と展望

- (1) 従来、景気と輸入は連動して推移。例えば、総需要と輸入の推移をたどってみると、両者の相関性は高く（図表1）、需要動向が輸入増減を左右する最大のファクター。なお、ここでは、価格変動の影響を除去するために実質ベースで対比。
- (2) しかし、近年、景気と輸入の関係に変質の兆し。すなわち、総需要が底堅く増加しているにもかかわらず、輸入の伸び悩み傾向が次第に加速（図表1）。
- (3) こうした傾向は、財ベースでみると、より鮮明。輸入数量の推移をみると、今年に入って減少傾向に転落（図表2）。やや遡ってみると、2004年前後から、景気と輸入数量との相関関係が次第に希薄化へ。すなわち、総需要が着実に増加し、増勢に大きな変化がないなか、輸入数量の増勢が期を追って趨勢的に鈍化。2003年前後を分水嶺に、その前後の局面で、景気と輸入との関係に大きな変化。
- (4) 輸入数量の減少を財別にみると主因は資本財（図表3）。ウエイトは小さいものの、建設財も本年入り後低迷。さらに、昨年までの着実な増勢が頓挫し、頭打ち傾向に転じた点では生産財も一因。一方、消費財は着実な増勢に大きな変化は看取されず。
- (5) 輸入数量の減少について、価格要因にも可能性。まず、為替相場の推移をみると、円ドル相場は総じて横這いながら、実質実効為替レートはすでにプラザ合意時まで下落（図表4）。

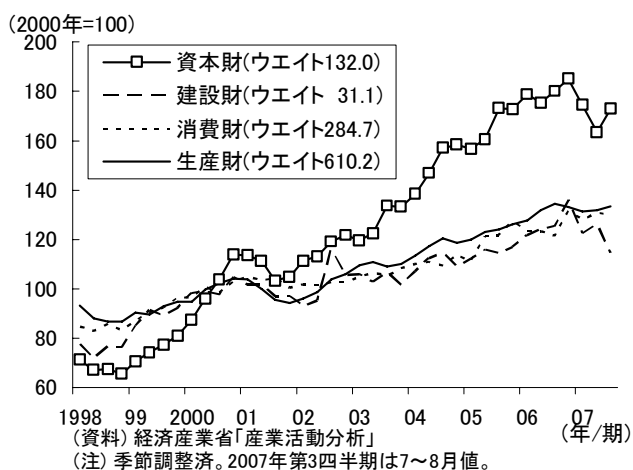
（図表1）実質総需要と実質輸入の推移
（前年比）



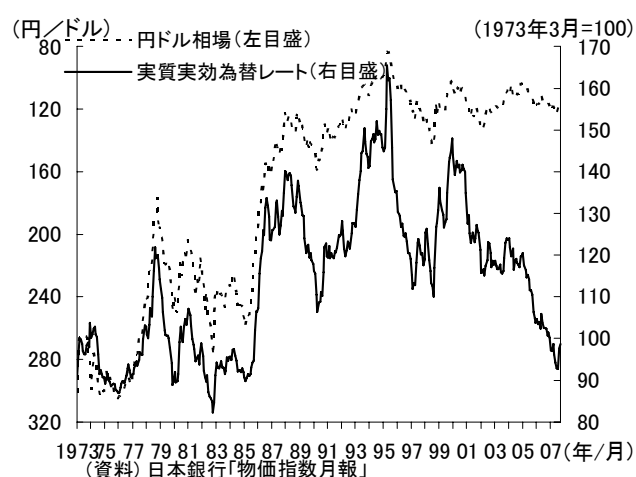
（図表2）実質総需要と輸入数量の推移
（前年比）



（図表3）財別輸入数量の推移



（図表4）円ドル相場と実質実効為替レートの推移



- (6) そこで、輸入品の価格競争力をみるために、国内品と輸入品の価格の推移、さらに、国内品に対する輸入品の相対価格の推移をたどってみた（図表5）。財別に整理してみると、次の通り。

【全体】

2004年以降、国内品の価格が緩やかな上昇をたどるなか、輸入品の価格はとりわけ05年以降急速に上昇。その結果、相対価格も05年以降、大きく変化。輸入品の価格競争力が大幅に低下へ。

【工業製品】

方向性は全体と同様。ただし、輸入品の価格上昇とそれに伴う相対価格の変化は、05年末以降、本格化。

【資本財】

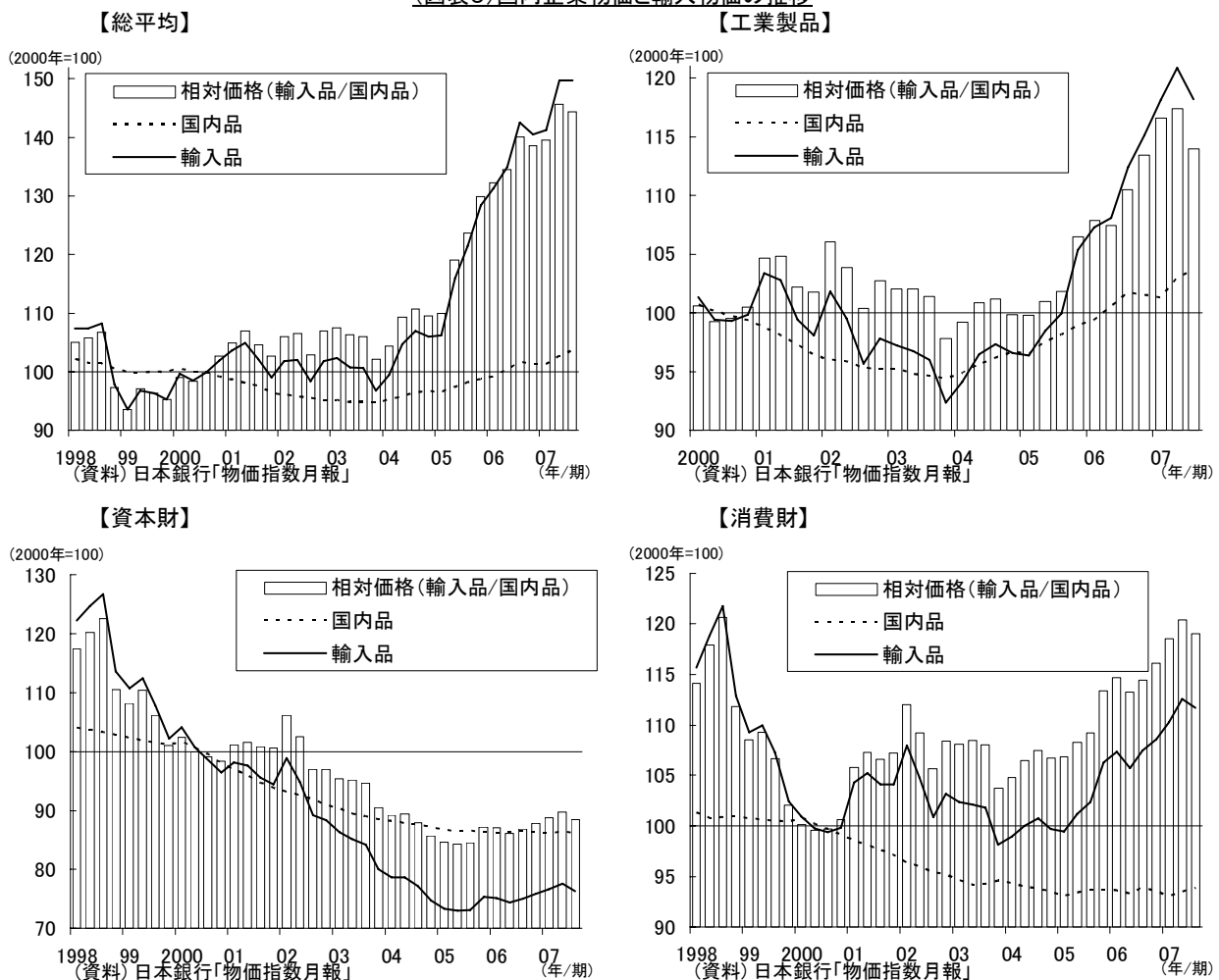
輸入数量減少の主因である資本財では全体とほぼ正反対の動き。国内品の緩やかな価格下落が続くなか、輸入品の価格は03～04年ではそれを上回って低下。05年以降横這いで相対価格は低下。輸入品の価格競争力は増大しており、数量減は説明不能。

【消費財】

消費財では全体とほぼ同様、輸入品の価格競争力が低下。消費財輸入増の説明困難。

- (7) 生産財、とりわけ鉱物性資源など素原材料は需要に応じて輸入せざるを得ず、そもそも価格要因は小さな寄与。総じてみれば、価格要因は説明力不足。

(図表5)国内企業物価と輸入物価の推移



- (8) そこで、国内総供給に占める輸入製品のシェア、いわゆる輸入浸透度を、全体、ならびに財別に分け、やや長い目でみると、次の通り（図表6）。

【～2005年半ば】

輸入浸透度が期を追って着実に上昇。とりわけ資本財では、浸透度が大幅に上昇。98年の6%強から03年には13%強へ5年で倍増。

【05年半ば～06年末】

輸入浸透度の上昇傾向に急ブレーキ。ほぼ横這いで推移。

【07年入り後】

輸入浸透度が低下傾向に転換。もっとも、財別には差異。消費財が横ばい傾向で推移するなか、生産財は若干の低下、資本財は大きく低下。

- (9) これらを総じてみると、ブラウン管型から薄型テレビへ売れ筋の転換が進む一方、DVDレコーダーやデジタルカメラ、高級ゲーム機の販売が好調ななか、メイン・パーツのフラッシュメモリやコネクタ、それらを製造する工作機など、高付加価値の国内資本財へのニーズが増大し、輸入依存体質が後退、という情勢変化が指摘可能。

- (10) こうした動きが今後の景気に及ぼす影響を試算してみると、次の通り。

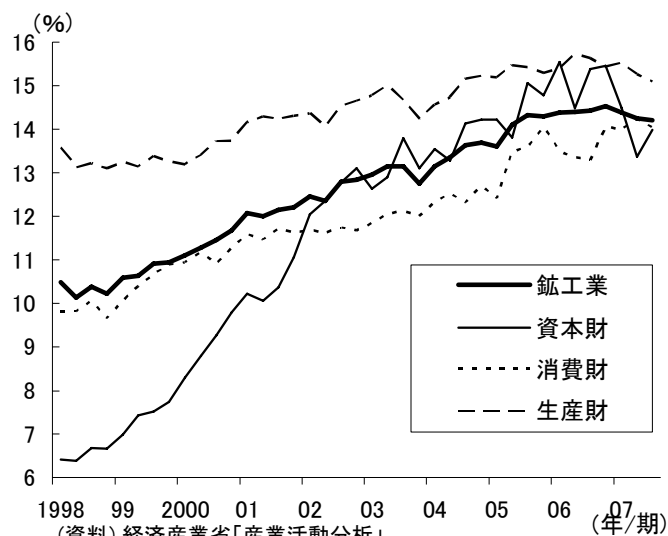
【資本財並みまで輸入品全体の減少ペースが拡大した場合】

実質GDP成長率の押し上げ効果……+0.4%ポイント

【逆に、輸入品が増加に転じ、増勢が消費財並みまで上昇した場合】

実質GDP成長率の押し下げ影響……▲0.4%ポイント

(図表6) 財別輸入浸透度の推移



(資料) 経済産業省「産業活動分析」

(注) 季節調整済。2007年第3四半期は7～8月値。

(図表7) 輸入数量増減の実質輸入および実質GDPに対する寄与度(試算)

		実質輸入に 対する寄与度	実質GDPに 対する寄与度
減勢加速 ケース	資本財の減勢と同値 (2007年上期:前年比▲4.6%)	+ 3.8	+ 0.4
現状維持 ケース	全体の減勢と同値 (2007年上期:前年比▲1.9%)	+ 1.6	+ 0.2
増勢転換 ケース	消費財の増勢と同値 (2007年上期:前年比+5.0%)	▲ 4.1	▲ 0.4